

内容

- 1 学習評価の工夫
- 2 ルーブリック作成の手順
- 3 1人1台端末の効果的な活用
- 4 実践事例の交流

1 学習評価の工夫 2 ルーブリック作成の手順

・これまでの主体性を見取る評価場面では、拳手の回数やノートなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解を与えかねない現状がある。

→そこで、**どのような方針によって評価を行うのかを事前に示し、児童生徒と共有しておく**必要性

- ① 評価の妥当性・信頼性を高めるために
- ② 児童生徒に各教科において身に付けるべき資質・能力の具体的なイメージをもたせるために
- ③ 学習の見通しをもたせ自己の調整を図るきっかけとするために

その具体として、「ルーブリック」が挙げられている。子供自身が自らの学習活動を客観的に捉え、評価することや「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識・技能、思考・判断・表現を獲得に向かうプロセス（学習調整や粘り強さ）を見取ることに意義がある。

学習としての評価

近年では、教師が子どもを一方向的に評価するのではなく、**子どもを評価活動に参加させる取り組み**も行われています。たとえば、レポート課題や発表において、成果の基準(A、B、C)を質的な記述で表した「**ルーブリック**」を教師と子どもが共有し、子どもが自分自身を評価したり（**自己評価**）、友だちと評価し合ったり（**相互評価**）します。

その過程において、子どもは、自らの学習を客観的に捉える能力（**メタ認知能力**）や**学習意欲**を高めたり、学習内容に対するより深い理解をもつことができるのではないかと注目されています。とりわけ、学習指導要領が掲げるように、知識を習得するだけでなく、それを活用し、探究するレベルまで含んだ高次の学力をすべての子どもに保障するためには、評価活動に子ども自身も参加させるこうした取り組みは重要であると考えます。

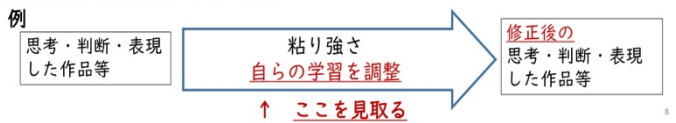
このように、評価は、教育実践の計画や改善、あるいは教師の教育力向上にとって不可欠であるだけでなく、子どもの学習のための評価、**学習としての評価**としての役割も担っているのです。

西岡かね恵・石井英真・田中耕治編『新しい教育評価入門人を育てる評価のために』18頁

主体的に学習に取り組む態度の評定とルーブリック

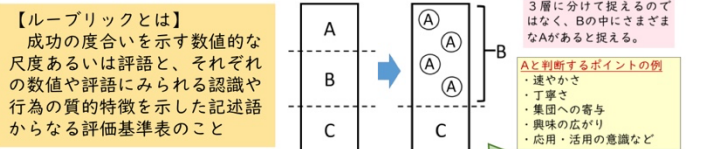
●「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「**①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組**を行おうとしている側面と、**②①の粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている側面**という二つの側面が求められる。」とされている。  
教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」12頁

「主体的に学習に取り組む態度」を個別に見取る（点で見取る）のではなく、**2観点の獲得に向かうプロセス**を見取ろうとすることが重要ではないか。



5

道研連共同研究推進委員会で話合った ルーブリックの考え方



【共同研究推進委員から】  
明確な基準があり、学校全体での取組となれば負担軽減になるが、児童生徒や保護者に納得の得られる基準にする必要がある。  
本研究では、AとBを明確に分けず、Bの中に様々なAがあると捉えます。

評価規準 判断基準	記述語（主体的に学習に取り組む態度）
A 「十分満足できる」状況	【 <b>加点するポイント</b> 】 ・自分の力で問題を見出して、アンケートを作るなど学習の計画を立てている。 ・1回の比較・調査で終わらず、さらに調査や追究を進めている。 ・友達のことを取り入れて、修正している。 ・友達により影響を与える取組をしている。等
B 「おおむね満足できる」状況	【 <b>評価規準</b> 】 問題解決に必要なデータを集め、観点を定めて分類整理し、それをグラフに表して見いだしたことを表現しようとしている。
C 「努力を要する」状況	【 <b>手立て</b> 】※B基準に到達していない子（表現しようとしていない子） ・幾つかの問題から選択できるように選択肢を用意しておく。 ・過去の作品や見本を示し、完成（ゴール）をイメージさせる。 ・児童同士の交流を設けて見通しをもたせる。等

加点するポイントを複数設定し単元を通して見取る。  
B基準に到達していない児童生徒に対する手立てを明示する。

特に主体性に関わる評価については、A・B・Cの3つに分けて捉えるというよりも、**Bの基準を達成している評価物、児童生徒の姿に対して加点をしていき、Aの基準を見取る。**→ルーブリックを作成するときには、Bの基準から考えていくのが一般的。  
Bの基準に到達していない児童生徒（Cの基準）には、手立て（指導の個別化）を講じていく。  
**※単元で設定した目標に対する評価規準≠Bの基準**

<ループリック作成の手順に関わる課題や具体について>

協議題① 各学校でループリックを作成するときに気を付けること、難しいと感じることについて

② ループリック作成に向けて、学年（教科）間との共有の実際と課題、その解決方法について

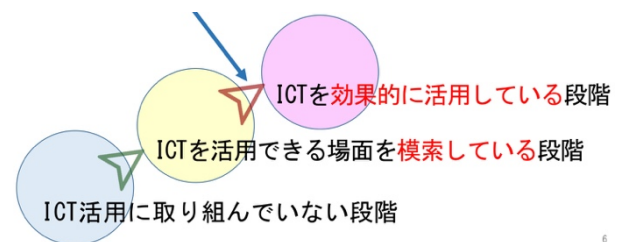
- そもそも、「ループリックとは何だ?」という教員も多く、活用していきましょうという段階ではない地域や学校がほとんどであるのが現状である。
- 実際に作成して活用していくとしても、作成しているループリックに信頼性や妥当性をもたせることに壁を感じる。また、ループリックは「実際の子供の作品群をもとに、複数の採点者の点数とその根拠のすり合わせを通して作成される」ものだが、現時点で教師それぞれが個人で作成している現状があるため作成の根幹が満たされていないという問題点が考えられる。
- ループリックを作成し、児童生徒と共有することで学習に対する主体性（学習調整や粘り強さ）が増す効果がある一方で、子供が A 評価を取ることを意識しすぎてする賢い選択をしまったり、教師の指導や子供の思考の幅が狭まったりしてしまう可能性もあるという意見も出た。
- 指導と評価の一体化に効果があるのは分かっているので、カリキュラムマネジメントの視点を持ちながら、どの時期、どの単元でループリックを作成して取り組んでいくか、学級間・学年間での連携が必要になる。また、作成の際には、単元の指導計画・評価計画、パフォーマンス課題などを意識していくとつながりが出る。
- 解決としては、校内研修に位置付け、学校全体で作成や活用をおこなっていく。また、長期的な取組として行い、教師や児童生徒が変わっても、妥当性や信頼性のある評価ができるようにしていく。作成するのに、時間や労力がかかるのも事実だが、一度作ってしまえば、それをベースにさまざまな場面で活用していくことが可能である。

### 3 1人1台端末の効果的な活用

### 4 実践事例の交流

• これまでの教育実践と1人1台端末を中心としたICTのベストミックスを図ることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善（学習活動の一層の充実）がなされることをGIGAスクール構想で狙っている。

- 取組の現状としては、多くの学校で試行錯誤を重ねながらICTを活用できる場면을模索している段階である。
- 実践を考え、振り返る際に、単元や1単位時間についての工夫（縦の視点）と、他教科の学習場面で活用できないか（横の視点）の両方を意識できるとよい。
- 活用の際に教科の学びで大切にすることを意識する



- 「教科の特性」について考える際に  
→ 「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料」・・・文部科学省HP
- 「活用イメージ」について考える際に  
→ スポーツ庁HP「ICT活用事例集」  
→ 道教委ICTポータルサイト  
→ 道教委「令和4年度小・中学校教育課程編成の手引き」

縦の視点



優れた実践例

1人1台端末の効果的な活用に係り、単元や1単位時間において、どのような指導の工夫が考えられるか。

他の教科等の学習場面においても、同様に活用することができないか。

横の視点

## <実践事例の交流>

### 協議題 日常の指導におけるICTを活用した実践について

- 自校の実践等を交流しました。感覚としては、「ロイロノート」や「Googleの各機能」を使っている自治体が多い印象でした。各グループの実践例や話を聞いていると旭川市は、環境の面でやや遅れているのが否めないかもしれません。
  - 旭川市は「iPadが1人1台、コロナでの学級閉鎖・休校以外では無条件に持ち帰りはできない」他の市町村での取組の実態は（市町村全体とは限らない、あくまで出席者の勤務校での話）・・・
- A クロームブック、教育委員会がYouTubeなどのフィルタをかけて制限をつけた上で夏休み中は持ち帰りOK
- B 休校時は持ち帰りOK。その他は教科ごとに必要に応じて持ち帰りができる。管理職の承認が必要だが、そこまでハードルは高くないとのこと
- C 家での使用については、夏休み前に保護者に同意書を取り、同意した家庭のみ、持ち帰りOK
- D 現時点で持ち帰りはしていない。一度持ち帰らせて、ネット環境等、実際に使えるかどうかの環境調査をしているところ
- 
- 他の参加者の実践を聞いていると、やはり紙面よりもデジタルの取組の方が意欲的に活動する実態があるように感じる。タブレット等の端末を使用することではなく、個別最適、協働的な学びにどう生かしていくかを目的にしていくことは忘れてはならない。
  - 自治体によって使うハードやソフトが違う。せめて、管内の学校で統一されると教師の物理的・心理的負担も減る。
  - 子供の視点から撮影されたものや記録されたものは、教師からの視点にないものがある。物事を多面的・多角的に見ることができる。
  - 子供が個々に取り組む場面と共同編集して1つのものを作り上げる場面とを単元や1単位時間で組み込んでもおもしろい。
  - 「先生が使いこなす」時代から「子供が目的に応じて使える」時代が変わっている。